

環境経営を推進し、持続可能な社会の

ごあいさつ

ステークホルダーの皆さまとともに

当社は1988年に制定した企業理念において、「ヒューマンな九州を創る企業体」を掲げ、地域のライフラインを担う公益事業者として、誠実かつ公正な事業活動に努めてまいりました。

当社が今年3月に見直した新たな中期経営方針においても、「『お客さま』を企業活動の原点として、経営全般の品質向上を図り、お客さま、株主・投資家、社会、従業員の満足度を高めることにより、持続的な企業価値向上を目指す」という経営姿勢を掲げております。

お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまから信頼され、選んでいただけるよう、コンプライアンス経営の推進、経営の透明性の確保に向けた情報公開の一層の推進、環境経営の推進などこれまで以上に「企業の社会的責任」への取り組みを推進していくこととしております。

「環境保全」、それは九州電力が果たすべき社会的責任

2001年2月には「九州電力環境憲章」を定め、〈すべての事業活動において、環境保全意識を持ち、豊かな環境の実現を目指し、環境情報を公開する。〉ことで、「持続可能な社会」の構築に貢献していきたいと考えています。

皆さまご承知の通り、本年2月、先進国に温室効果ガスの削減義務を課す「京都議定書」が発効しました。

これにより、地球温暖化防止に向けた取り組みが、大きく動き出したこととなりますが、その道のりは必ずしも容易ではなく、また「京都議定書」のみで解決するものでもありません。

電気を生み出す過程で、CO₂などの環境負荷を発生させざるを得ない私どもは、「環境保全」、とりわけ、地球温暖化防止をはじめとする環境問題に真摯に取り組んでいく責務があると深く認識しています。

この気持ちを形にしていくため、

- ・ 九電グループ一体となった環境経営の推進
- ・ 安全性の確保を前提とした原子力発電の推進とそれを中心としたCO₂の排出抑制
- ・ 循環型社会を目指したゼロエミッション活動
- ・ 地域と一体となった「九州ふるさとの森づくり」などに、中長期的な視点に立って、着実に取り組んでまいります。

地域の皆さまとともに育む環境意識

地域の方々とともに進める「九州ふるさとの森づくり」。10年間で100万本を植樹しようというこの活動。環境の大切さを社員も忘れないようにしましょう、また、社外にもそういうスタンスをアピールしようと始めました。私自身もできるだけ参加していますが、大勢の子供が、泥まみれになり、額に汗して苗を植えている姿を見てうれしく思っています。常々、次世代を担う人たちを意識して育てていったり、経験させることが大切であると感じており、改めてこの取り組みに対する意を強くするところです。

構築に貢献します。

M e s s a g e
f r o m
P r e s i d e n t

環境コミュニケーションを推進

将来世代と環境の恩恵を分かち合える「持続可能な社会」の実現には、私ども企業や行政、あるいは生活者一人ひとりが、それぞれの立場で環境に配慮した活動を行うことが基本となることは言うまでもありません。しかし、これらをより効果的なものとしていくためには、各主体の活動を有機的に結合していくことが重要であると考えています。

その源となるのが「コミュニケーション」。

環境・エネルギー教育の出前講座や講演会、「エコ・マザー活動」などを通し、皆さまの「声」をお聴かせいただいています。

その一環である「環境アクションレポート」は、今回で9回目の発行となりますが、これまでも増して「コミュニケーション」を意識しながら、皆さまのご意見・ご要望を反映し、内容充実に努めました。

今後も、より多くの方々との環境コミュニケーションを通して、環境活動をさらに充実させていきたいと考えております。

是非、皆さまの率直なご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。

2005年6月

九州電力株式会社
代表取締役社長

松尾新吾

